

がん検診個別受診勧奨・再勧奨モデル事業取組結果

① 大腸がん検診再勧奨（生駒市）

対象:大腸がん（48歳・49歳 男女 3,000人）



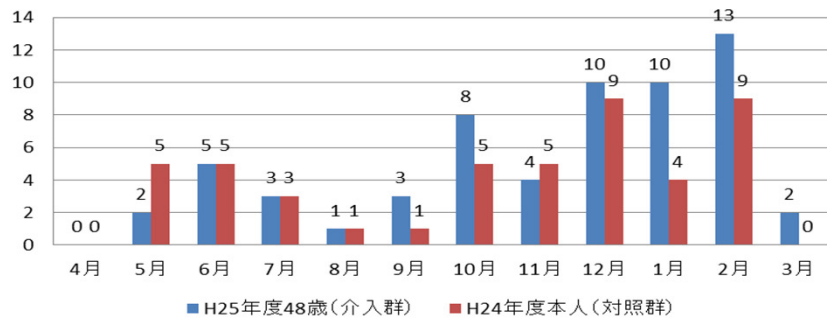
- 生駒市は従来、5がん検診の個別通知(受診券を送付)を実施しているため、モデル事業はリコールを実施。
- 個別通知3,000名（4月）
- 未受診者への再勧奨(リーフレットを送付)3,047名（※転入者含む）(10月)
- 効果検証・・・モデル対象の48歳・49歳と前年の48歳・49歳、前年の本人47・48歳、H25年度の全く未介入の44歳・45歳の比較

●他年度本人比較 H25年度の48歳・49歳(介入群)とH24年度の本人47歳・48歳(対照群)の受診数比較

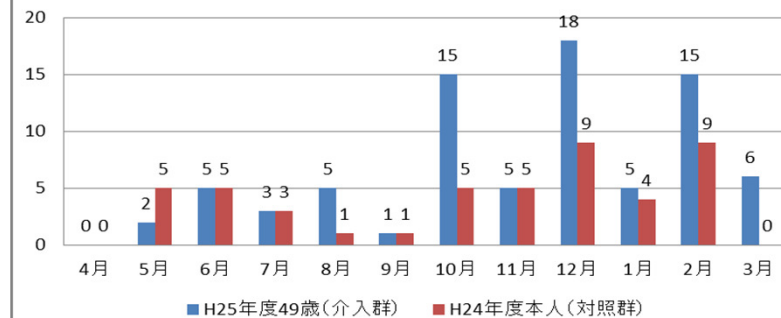
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計 (4~9月)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (10~3月)
H25年度48歳 (介入群)	0	2	5	3	1	3	14	8	4	10	10	13	2	47
H24年度本人 (対照群)	0	4	1	3	0	1	9	3	7	4	5	15	0	34
H25年度 49歳(介入群)	0	2	5	3	5	1	16	15	5	18	5	15	6	64
H24年度本人 (対照群)	0	5	5	3	1	1	15	5	5	9	4	9	0	32



受診者数比較48歳(他年度本人比較)



受診者数比較49歳(他年度本人比較)



●他年度同一年齢比較 介入群の48歳・49歳と前年の48歳・49歳との比較

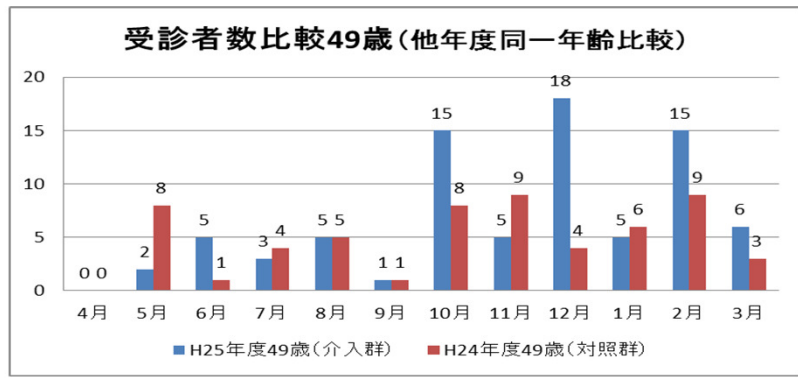
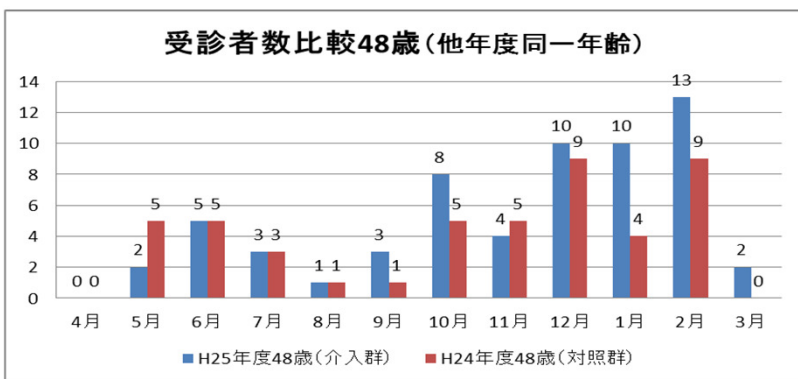
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計 (4~9月)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (10~3月)
H25年度48歳 (介入群)	0	2	5	3	1	3	14	8	4	10	10	13	2	47
H24年度48歳 (対照群)	0	5	5	3	1	1	15	5	5	9	4	9	0	32
H25年度 49歳(介入群)	0	2	5	3	5	1	16	15	5	18	5	15	6	64
H24年度 49歳(対照群)	0	8	1	4	5	1	19	8	9	4	6	9	3	39

1.5倍

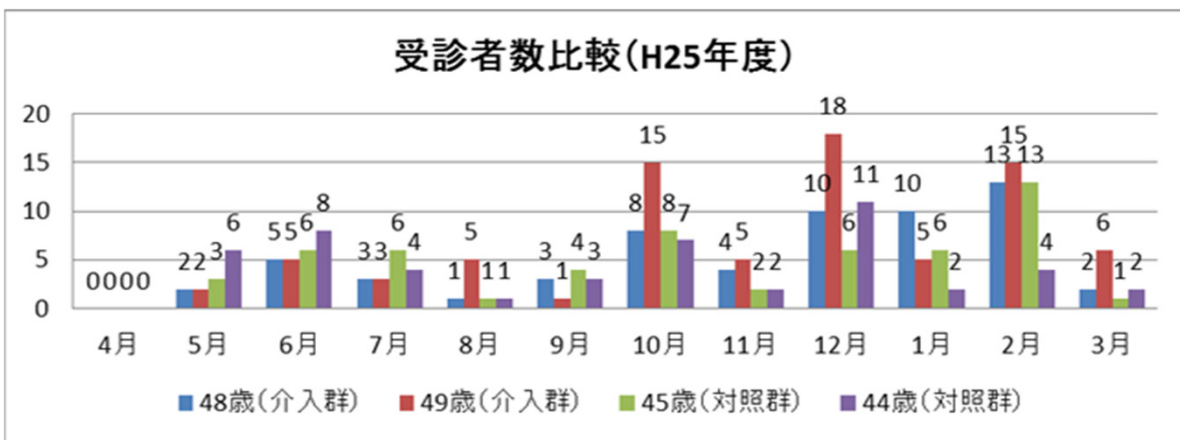
●10月にリコールを実施して、介入群48歳の受診者数は47名、49歳は64名で、対照群48歳は32名、49歳39名であり、どちらも介入群の方が受診者数が増加している。

1.6倍

●介入群の受診者数は、48歳が1.4倍の増加、49歳は1.6倍の増加がみられる。



●同一年度他年齢比較 モデル対象年齢48歳・49歳と全く介入のない年齢44歳・45歳(対照群)との受診数比較

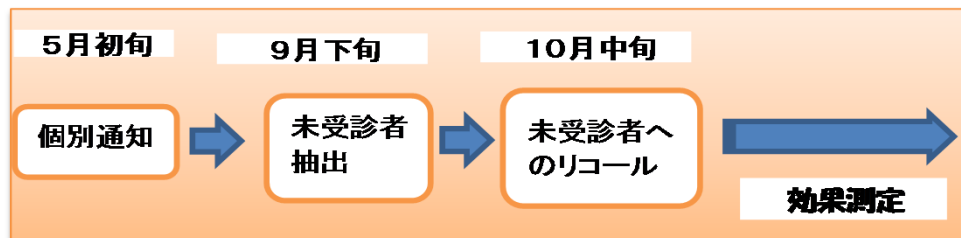


●10月にリコールを実施して、介入群49歳の受診数が増加している。

がん検診個別受診勧奨・再勧奨モデル事業取組結果

② 子宮頸がん個別勧奨・再勧奨（葛城市）

対象:子宮頸がん(20~39歳 3,249人)



- 個別通知(受診券を送付)3,249名 (5月)
- 未受診者への再勧奨(リーフレット送付)3,002名 (10月)
- 効果検証・・・モデル対象の20~39歳と2年前の20~39歳の比較, モデルの39歳と全く未介入の43歳の比較

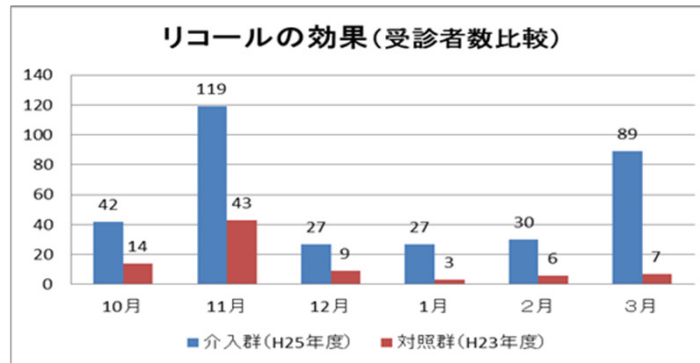
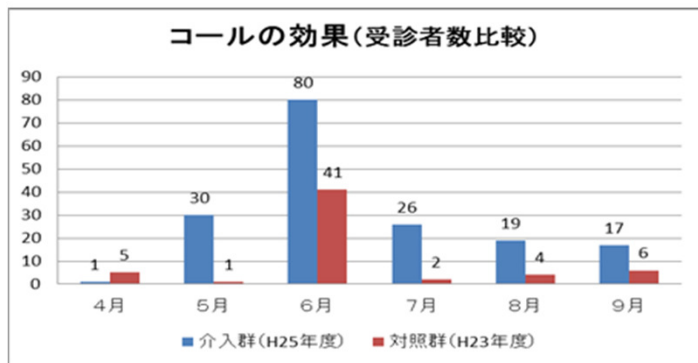


● 月別受診者数 H25年度の20~39歳(介入群)とH23年度の20~39歳(対照群)の月別受診数比較 <コールの効果>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
介入群 (H25年度)	1	30	80	26	19	17	173
対照群 (H23年度)	5	1	41	2	4	6	59

2.9倍

- 5月初旬に受診券及び案内文を送付した。(市では初めてコールを実施した。)コール後の受診者数は173名であり、2年前の対照群は59名で、2.9倍の増加になる。
- コール後の1ヶ月が一番受診者数が増えている。



<リコールの効果>

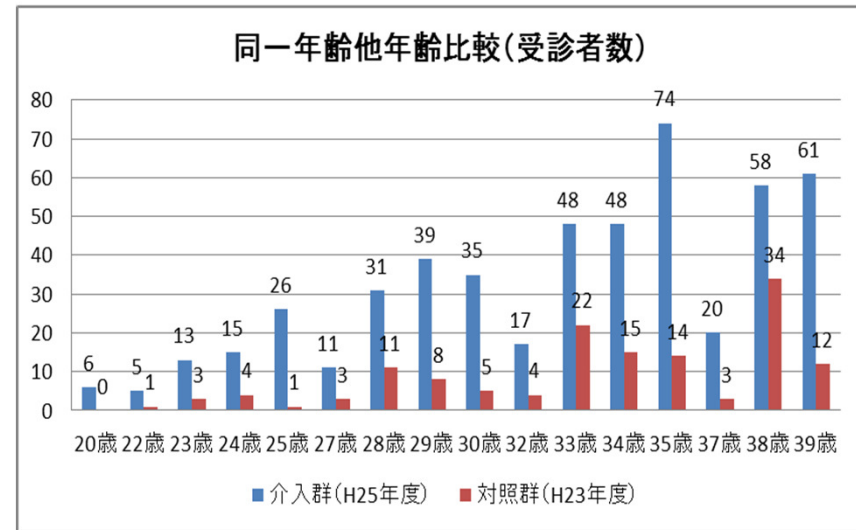
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介入群 (H25年度)	42	119	27	27	30	89	334
対照群 (H23年度)	14	43	9	3	6	7	82

4.1倍

- 10月未受診者に再勧奨用のリーフレットを送付した。
- リコール後の受診者数は、334名で、2年前の対照群は82名で、4倍の増加がみられる。
- リコール後の翌月が最も受診者数が増加している。

●他年度同一年齢比較 H25年度の20～39歳(介入群)とH23年度の20～39歳(対照群)の一歳刻みの受診数及び受診率比較

介入群 H25年度年齢	受診者数 (人)	受診率	対照群 H23年度年齢	受診者数 (人)	受診率	受診率の差
20歳	6	3.8%	20歳	0	0.0%	3.8%
22歳	5	3.6%	22歳	1	0.6%	3.0%
23歳	13	7.5%	23歳	3	1.6%	5.9%
24歳	15	7.7%	24歳	4	2.0%	5.7%
25歳	26	13.7%	25歳	1	0.5%	13.2%
27歳	11	7.3%	27歳	3	1.6%	5.7%
28歳	31	13.7%	28歳	11	5.6%	8.1%
29歳	39	17.5%	29歳	8	3.6%	13.9%
30歳	35	18.4%	30歳	5	2.3%	16.1%
32歳	17	10.2%	32歳	4	2.2%	8.0%
33歳	48	21.2%	33歳	22	8.3%	12.9%
34歳	48	19.4%	34歳	15	6.3%	13.1%
35歳	74	28.7%	35歳	14	5.3%	23.4%
37歳	20	11.2%	37歳	3	1.6%	9.6%
38歳	58	22.7%	38歳	34	12.5%	10.2%
39歳	61	19.7%	39歳	12	4.1%	15.6%



- 介入群で最も受診者数が多いのは、35歳、次に38歳。
- 2年前の対照群と比較すると、どの年齢も介入群の受診者数及び受診率が高い。
- 介入群と対照群の差が最も大きいのは35歳、ついで30、39歳。

●同一年齢他年齢比較

H25年度の39歳(介入群)とH25年度で市から全く介入のない年齢43歳(対照群)との受診数及び受診率比較

介入群	受診者数 (人)	受診率	対照群	受診者数 (人)	受診率	受診率の差
39歳	61	19.7%	43歳	18	6.7%	13.0%

- 介入群であるモデル対象年齢の39歳と最も年齢が近く市から何も介入しない年齢43歳の比較すると受診率は13.05%の差がある。